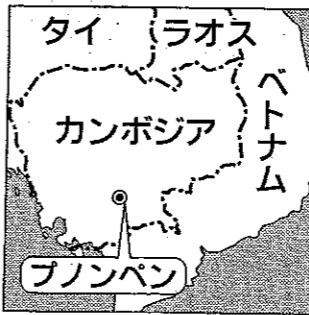


★第20回毎日

第20回毎日国際交流賞(毎日新聞社主催)は、認定NPO法人「シェア=国際保健協力市民の会」(東京都台東区)と、同「JHP・学校をつくる会」(東京都港区)代表理事で脚本家、小山内美江子さん(78)に決まった。シェアは夕

カンボジアに建てられた校舎とプランコの前に並んだ小山内さんやスタッフ、子どもたち=JHP提供



受賞理由

脚本家として知られる小山内美江子さんは、カンボジアで200棟を超える学校校舎の建設に尽力している。金銭的支援にとどまらず、日本の大学生ら若者に現地での帰還難民の救援活動に参加。ポル・ポト政権下で徹底的に破壊された学校を目的の当たりにして、学校建設の必要性を痛感した。

「ミニマム・ヘルス・ケアと保健NGOの四半世紀」「人びとと共に」を求めて「本田徹さん(シェア国際保健協力市民の会代表理事)▽「共に生きる」小山内美江子さん(JHP・学校をつくる会代表理事)△記念シンポジウムバネリスト▽熊岡路矢さん(日本国

受賞記念講演会

来月27日、毎日新聞・明記し、〒530-1825 毎日新聞大阪本社 総合事務局「毎日国際交流賞事務局」へ。折り返し入場証を郵送します。▽お問い合わせ▽同事務局(06・6346・8377)平日午前10時〜午後6時) 主催 毎日新聞社 後援 外務省ほか 協賛 株式会社クボタ

市民レベルの国際交流・協力の支援と国際理解の促進を目的に、毎日新聞社が89年に創設した。外務省が後援、株式会社クボタが協賛する。本社委員の選考委員が国内外からの推薦を基に審議

校舎建設 学ぶ喜び広げ

東京都港区浜松町の事務所には、カンボジアの子どもたちに配られるピアノカが山積みされていた。「よく200棟もできた。200棟目は1人1万円ずつ、630人に協力してもらいました」。小山内美江子さんは笑顔を見せた。

た。当時、日本は巨額の戦費負担をしながら、国際社会から「血も流さず、汗もかかない」と批判を受けた。小山内さんは「日本として

多くの小中学校で教室が不足。老朽化で、倒壊の危険から十分に授業ができない学校もあるという。JHPには年間60棟の校舎建設の要望が寄せられる。JHPは既存の学校に、新校舎とトイレ、井戸などを寄贈する。当初、年一棟だった校舎建設は、ここ数年、20棟ペースになった。Pノンペンにある現地事務所(日本人3人、現地スタ

児童施設で人材育成も



カンボジアから来日、美容師を目指すモン・スレイバオさん(奥)とティ・チャリアさん(左)＝大阪市中央区の美容院で、三村政司撮影

数々のドラマを手がけた小山内さんの人脈で、吉永小百合さんや藤原紀香さんら芸能人も活動に協力する。ただ、JHPは「apan team of young Human Power」の略。活動の主体は学生ら若者だ。大学生らを対象に「国際ボランティア・カレッジ

02年からは、Pノンペン郊外のごみ山で働く子どもたちの生活を支援するため、児童養護施設「幸せの子どもの家」(CCH)も運営する。当初は孤児が中心だったが、今では親の育児放棄や虐待を受けた子どもも含め、5〜19歳の49人が生活する。縫製や美容師などの職業訓練を受け、野菜栽培や動物飼育もしている。

競争倍率300倍のシンガポールの難関高校へ合格した子も出た。CCHからは少女2人が来日し6・9月、大阪で美容師の仕事体験している。ティ・チャリアさん(16)とモン・スレイバオさん(16)。大阪市内で美容室4店を経営する中村豊社長(58)＝同市東成区Ⅱが、2人を招いた。旅費や滞在



＝梅田麻衣子撮影

小山内美江子さん(JHP・学校をつくる会代表理事)★

おさない・みえこ 1930年、横浜市生まれ。私立鶴見高等女学校(現鶴見大学付属高校)卒。同市鶴見区在住。脚本家。代表作はテレビドラマ「3年B組金八先生」や大河ドラマ「徳川家康」「翔ぶが如く」。代表理事を務める「JHP・学校をつくる会」はカンボジアで校舎を建設し、児童養護施設を運営する。JHP事務所は、東京都港区浜松町1の25の11、宮下ビル4階。☎03-6411-5261。寄付(税控除あり)は、ゆうちょ銀行「00110・4・356264 特定非営利活動法人JHP・学校をつくる会」へ。

活動を始めると既に18年。「よく、いつまでやるんですか?と聞かれるんです。もういいんじゃないかと聞いているんですよ。冗談交じりに話した後、付け加えた。でもね、JHPの若い子とか、CCHの小さい子と会っていると、本当にうれしいんですよ。包み込めようという優しい声で笑った。